かくれんぼ

むらやまかずこ さく
村山 籌子 作

ある日、小ぐまさんとあひるさんが、かくれんぼをして遊びました。ジャンケンをして小ぐまさんが負けました。小ぐまさんは、あひるさんがむこうのお部屋に行っている間に、机の下にもぐり込みました。机の下にかくれた小ぐまさんは、あひるさんの来るのをどんなに待ったことでしょう。一時間はたっぷりじっとしていました。それなのに、あひるさんは、まだ、さがしに来ないのです。小ぐまさんは、まっくらな、せまい所でしゃがんでいるものですから、足や手が痛くなって来ました。小ぐまさんは、腹がたって、腹が立ってたまらなくなりました。そして、かくれんぼなんぞ止しちまえ、と思って、机の下から這い出ようとしたのですが、あひるさんに見付かると、せっかく、今まで辛抱したのが、無駄になるので我慢しました。

さて、あひるさんは、お隣の部屋で何をしていたのでしょうか。このあひるさんは、とても、わすれっぽいあひるさんだったものですから、小ぐまさんとかくれんぼをしていることをすっかり忘れてしまって、おしゃれをしていたのです。あひるさんは、女の子だったからです。まずお母様の洋服を着て、おくつをはいて、その次にお帽子をかぶって、パラソルをひろげて部屋から、外に出かけながら、大きな声で小ぐまさんに言いました。「小ぐまさん、私は、これから散歩に行つて来ます。」そして、どんどん外にかけて行ってしまいました。小ぐまさんは、それを聞いて、「僕もいっしょに行きたい。」と言いつうになりましたが、あひるさんにつかまると困ると思ったので、あわててお口にふたをしました。それから、小ぐまさん

なんじかん
は何時間、そこで、じっとしていたことでしょう。 どうとう、^{よる}夜になりました。 そ

れでも小ぐまさんは、もうちょっとの^{しんぼう}辛抱だ、もうちょっとの^{しんぼう}辛抱だと思って、

がまん ^{なぜ} 我慢をしていました。 何故といえ、^{だれ} 誰にも^{わか} 分からないような^{しょうず}上手なかく

れ場所を見つけたのですもの、小ぐまさんは、あひるさんに、それを^{じまん}自慢してやらな

ければ、つまらぬからです。すると、やがて、^{まど} 窓が^{ひら} 開く音^{おと}がしました。そして、^{だれ} 誰

だか^{たか} 高い窓から^{まど} 飛んでは^と 行って来て、又、^き 出て^{また} 行った^で ようなのです。 ^こ 小ぐまさん

は、その^{おと} 音を^き 聞いているうちに、すっかり、かくれんぼをしている^{わす} ということを^{わす} 忘れ

てしまいました。 そして、そっと、^{つくえ} 机の^{した} 下から^は 這い^だ 出して^い 行きました。そして、

^{つくえ} 机の上^{うえ} を見^み ました。けれども、その^{つくえ} 机の上^{うえ} には、^{まっしろ} 真白なナフキンがかぶさって

いるので、小ぐまさんにも、又、この^{また} お話^{はなし} を^か 書いて^{わたし} いる私^{わたし} にさえも^{わたし} 分からないので

す。すると、その^{した} ナフキンの^{ちい} 下から、^{こえ} 小さな声^{わたし} がしました。それは、「私^{わたし} は、お

^{つきさま} 月様^き です。」と^こ 聞^き えました。小ぐまさんは、それを^き 聞いて^{たいへん} 大変^{もう} よろこんで^{もう} 申しまし

た。「ナフキンの^{した} 下に^{つきさま} いらっしやる^{ひか} お月様^{ひか}、どうぞ、よく^{ひか} 光^{ひか} って、この^{ひか} くらいお

^{へや} 部屋^{あか} を^{くだ} 明るく^{もう} して^{もう} 下さい。」と^{もう} 申し^{うご} ました。すると、ナフキンが、^{うご} ピクピク^{うご} 動^{うご} いた

と思うと、ナフキンの^{した} 下から^{ひかり} 光^{へや} が^{あか} さして、お部屋^{へや} が^{あか} 明る^{あか} くなりました。その

^{とき} 時、^{ちょうど} 丁度^{わす}、^{さんぽ} 忘れ^{かえ} っばい^き あひる^こ さんが^{さんぽ} 散歩^{かえ} から^き 帰^こ っつて^こ 来^こ ました。小ぐまさんは、あひ

るさんに、とびついて^{よろこ} 喜^{ふたり} び^{つくえ} ました。そして、二人で、^{つくえ} 机^{うえ} の上^{うえ} のナフキンをそっ

とどけ^{つきさま} ましたら、お月様^{しろ} は^{せいようざら} いらっしやらないで、^{しろ} 白い^{せいようざら} 西洋^{せいようざら} 皿^{せいようざら} に、^{せいようざら} おい^{せいようざら} しい^{せいようざら} おい^{せいようざら} しい

い^{やま} ごち^{もり} そうが、^{やま} 山^{もり} のように^{もり} 盛^{もり} っていました。その^{もり} ごち^{もり} そうが^{もり} あまり^{もり} おい^{もり} しかった

ので、二人は、^{ふたり} かくれんぼ^{こと} の事^{わす} は、^{ふたり} すっ^{ふたり} かり^{ふたり} 忘^{ふたり} れ^{ふたり} て^{ふたり} しま^{ふたり} いました。